

豊野地区 住民説明会

国土交通省 北陸地方整備局
千曲川河川事務所

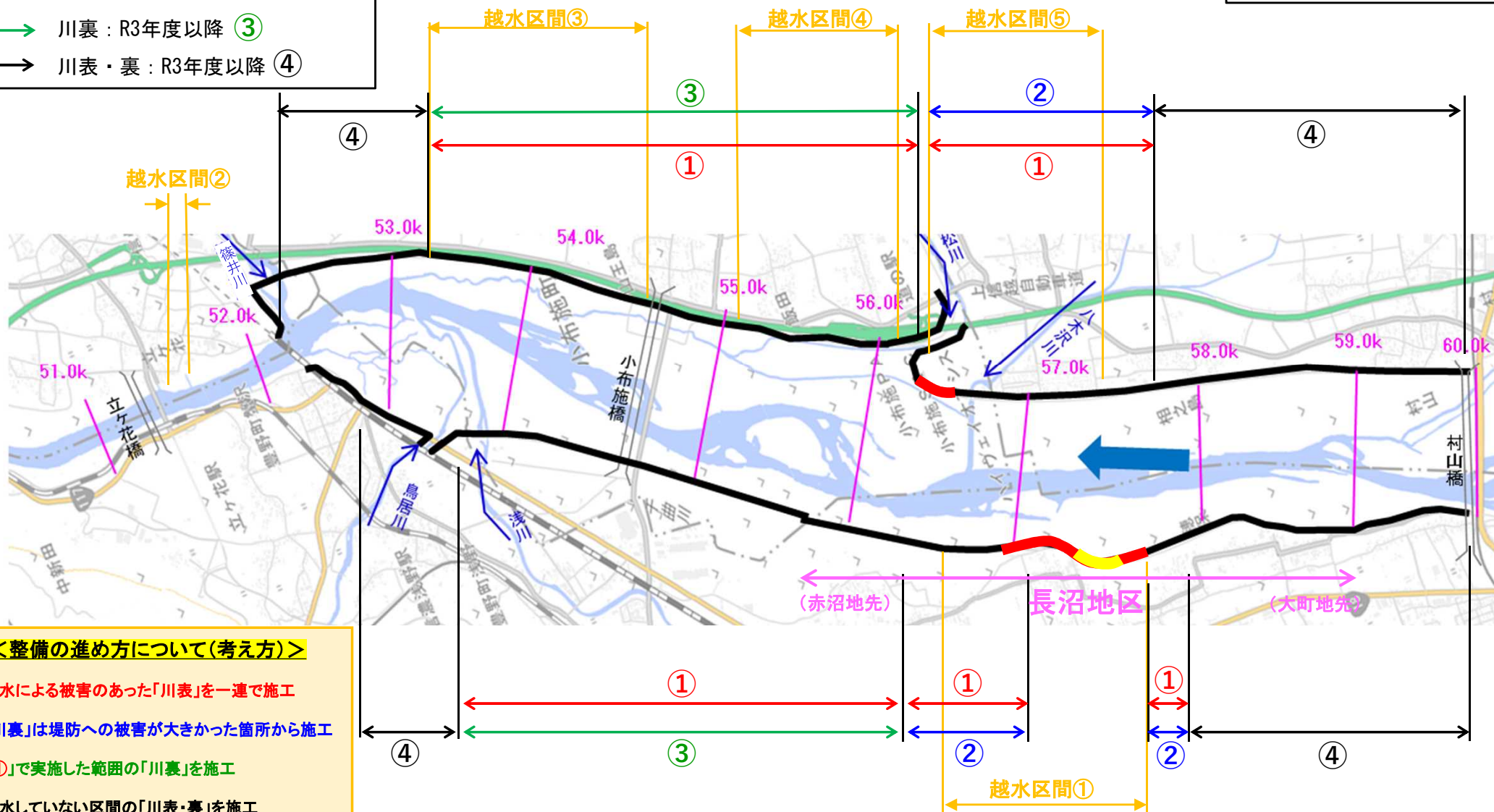
信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける堤防強化について

○立ヶ花狭窄部上流～村山橋の有堤区間の堤防強化対策を実施していく。

○令和元年東日本台風で越水した区間について、川表側の堤防強化対策を優先して実施。さらに越水による堤防欠損箇所が確認された区間である穂保地先と相之島の川裏側の堤防強化対策を実施。

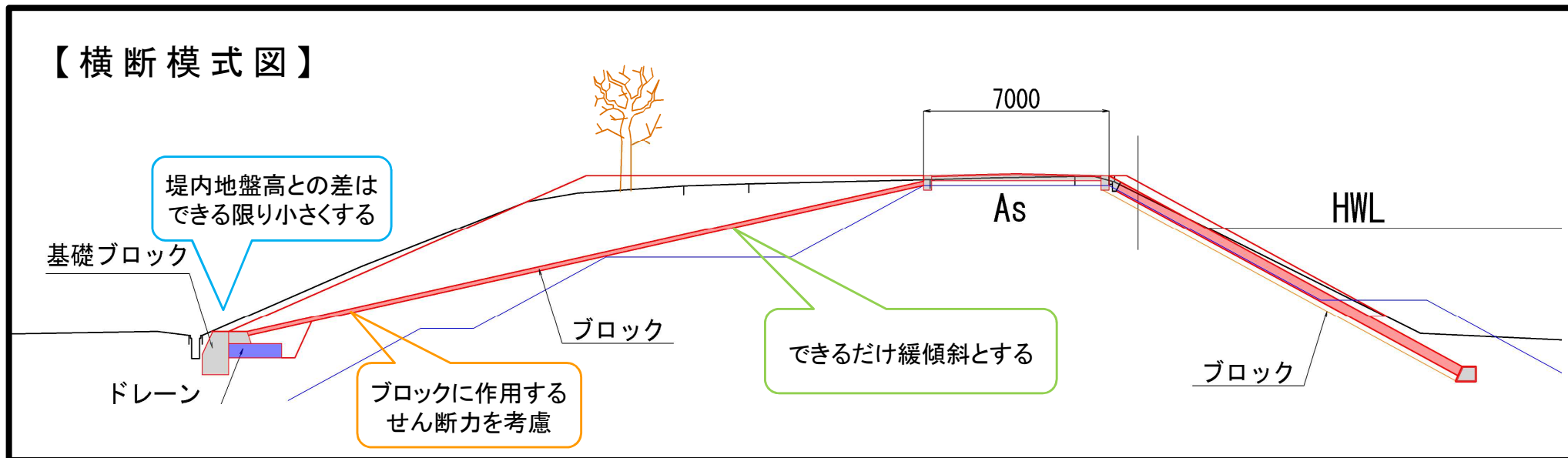
- ↔ 川表：R2～R3年度中に実施 ①
- ↔ 川裏：R2～R3年度中に実施 ②
- ↔ 川裏：R3年度以降 ③
- ↔ 川表・裏：R3年度以降 ④

- 堤防復旧区間（施工済）
- 矢板施工区間（施工済）



「今後の堤防強化対策にあたっての留意事項(案)」の対応策

●堤防強化の基本構造



●個別箇所での堤防構造

- 堤防構造は、粘り強い河川堤防とする。(粘り強い河川堤防と耐える堤防は別物である。)
- 堤防構造は、実測の越流水深や洪水流解析(不定流計算等)により、外力を想定する。
- 堤防裏法部の坂路等の堤防断面が変化する箇所(隅角部)は、越流に対して弱部になりやすいことから、堤防強化にあたっては、留意が必要である。
- 詳細は、設計段階で反映する。

○川裏は、緩勾配一枚法面とする。

	概要図	概要
現況		<p>・川裏小段有の計画断面で整備されている。</p> <p>54.0k 現況堤防</p>
堤防強化断面 (案)		<p>・川裏法尻部に設定されたブロックを撤去し、川裏を緩勾配一枚法面とする。</p>

鳥居川下流の堤防断面検討

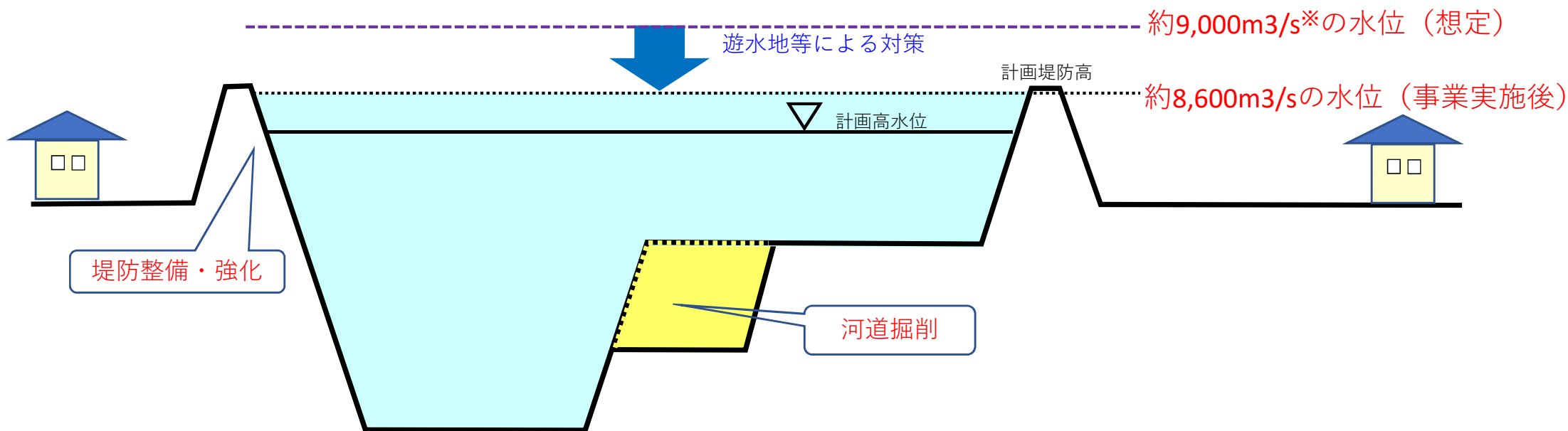
- 川表側に上下流と同様に護岸を整備予定。
- 川裏側については、国道18号があり、ブロックは施工済み。

	概要図	概要
現況		<ul style="list-style-type: none"> ・川裏側に国道18号が整備済み。
堤防強化断面 (案)		<ul style="list-style-type: none"> ・川裏側に国道18号が整備済み。 ・川表側に護岸を整備。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト【令和元年東日本台風洪水への対応について】

- 令和9年度までに、立ヶ花狭窄部を含む河道掘削や遊水地整備、堤防整備・強化を行う。
- 立ヶ花地点において約9,000m³/sの洪水規模※に対し、遊水地等の整備により約8,600m³/sまで洪水量を低減させる。
- 併せて、河道掘削等の実施により、プロジェクト完了時には、(東日本台風時における約8,400m³/sを超える)約8,600m³/sの洪水まで越水させずに流下させることができるようになる。

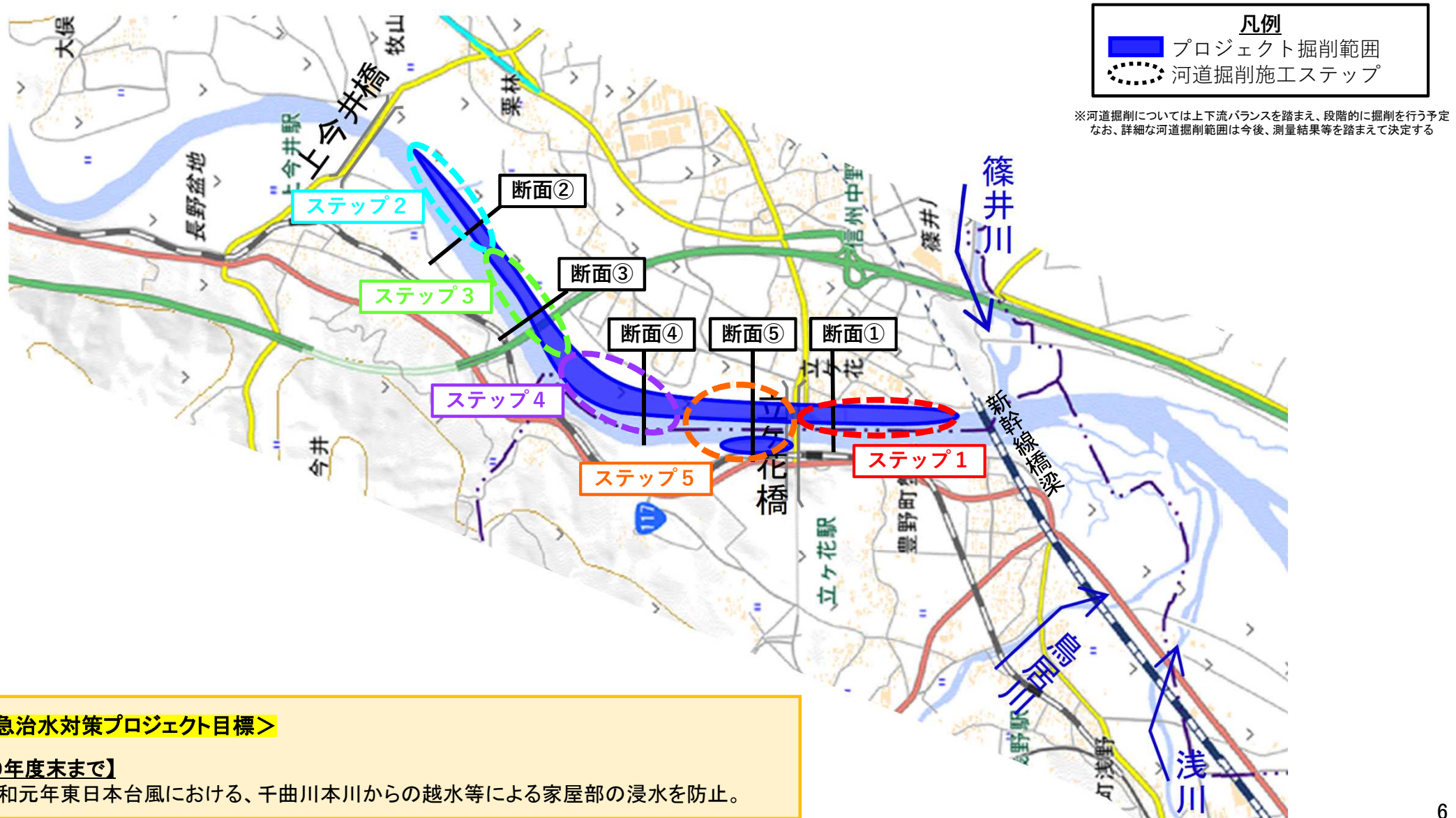
イメージ図：対策による効果



※令和元年東日本台風において、立ヶ花地点より上流での千曲川本川堤防からの越水等が生じなかった場合に想定される洪水流量。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける河道掘削箇所について(立ヶ花狭窄部)

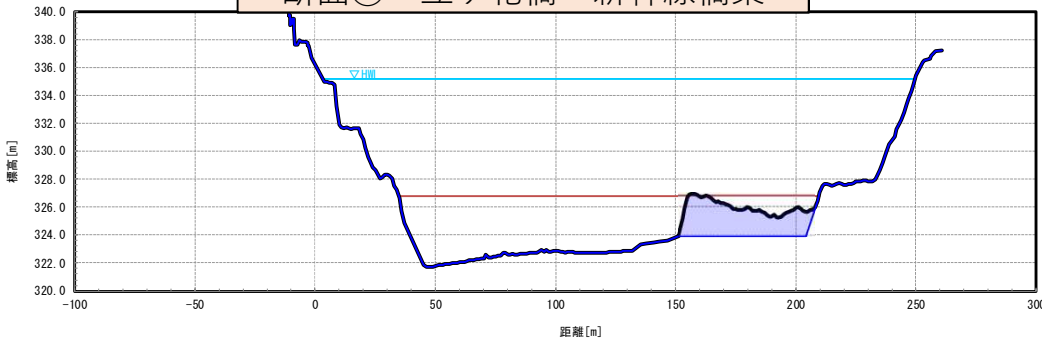
- 信濃川流域全体での上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、令和2年度から千曲川本川の水位低下を目指し、立ヶ花狭窄部の掘削を段階的に進める。
- 河道掘削を行う範囲を段階的に広げていき、上流に位置する立ヶ花狭窄部のせき上がりを受けている範囲において、令和元年東日本台風規模の洪水を計画堤防高以下で流下させる(R9年度末まで)



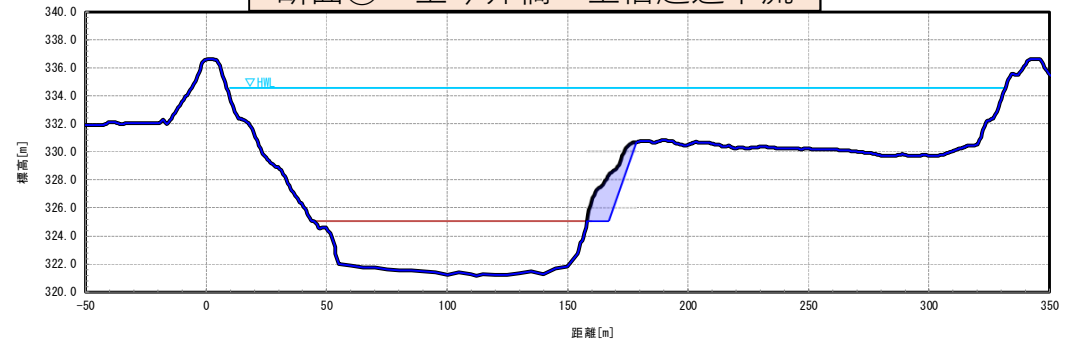
河道掘削の代表断面について(立ヶ花狭窄部)

- 立ヶ花狭窄部における河道掘削箇所の各代表断面は以下のとおり。
- 河道掘削を行うことで洪水時に流れる断面を大きくするだけでなく、冠水頻度が上がることで樹林化も防止することができる。

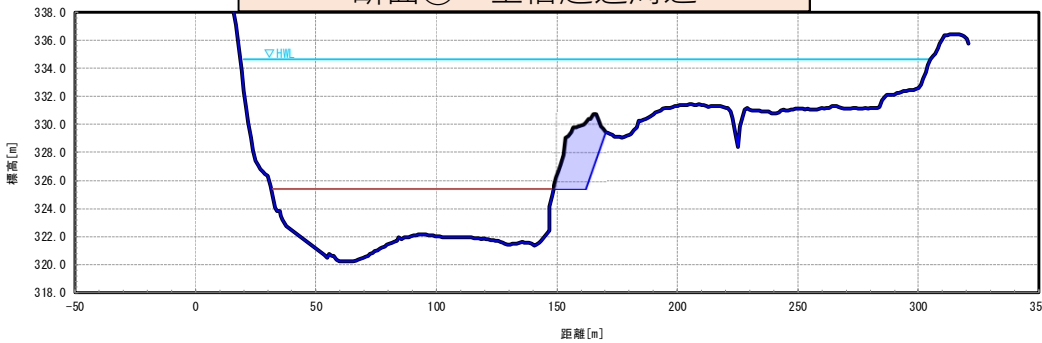
断面①：立ヶ花橋～新幹線橋梁



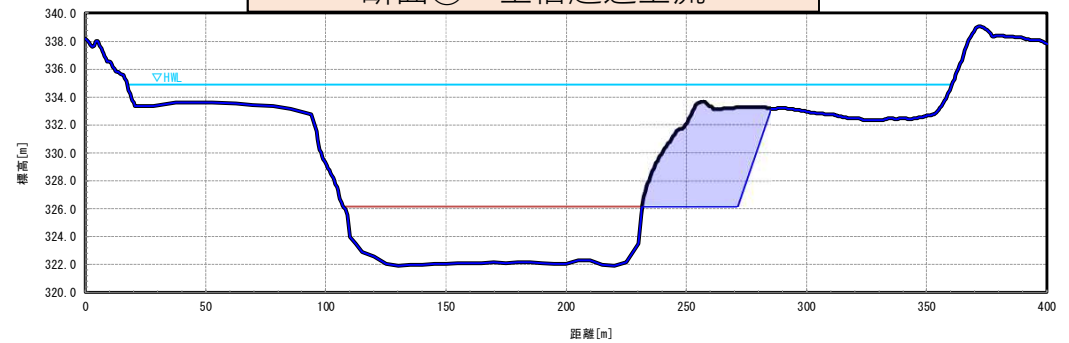
断面②：上今井橋～上信越道下流



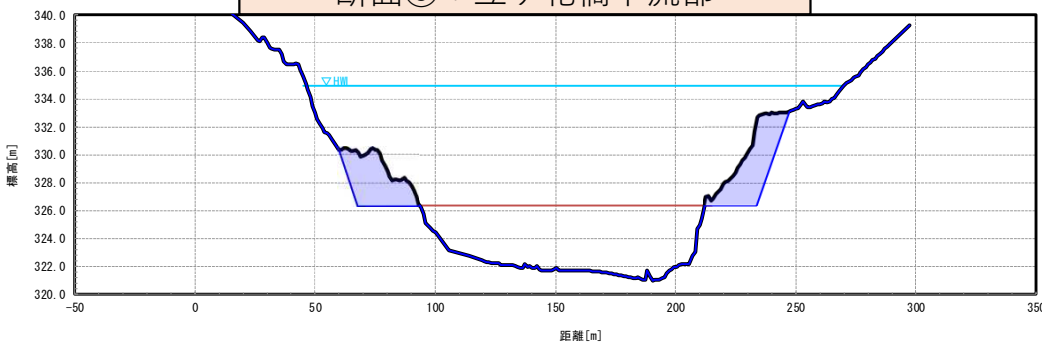
断面③：上信越道周辺



断面④：上信越道上流



断面⑤：立ヶ花橋下流部



【凡例】

- 現況河道
- プロジェクト河道
- 概ね1年に1回冠水する高さ
- 掘削範囲

立ヶ花地区狭窄部の施工状況

令和3年3月末時点での施工状況は以下のとおり。

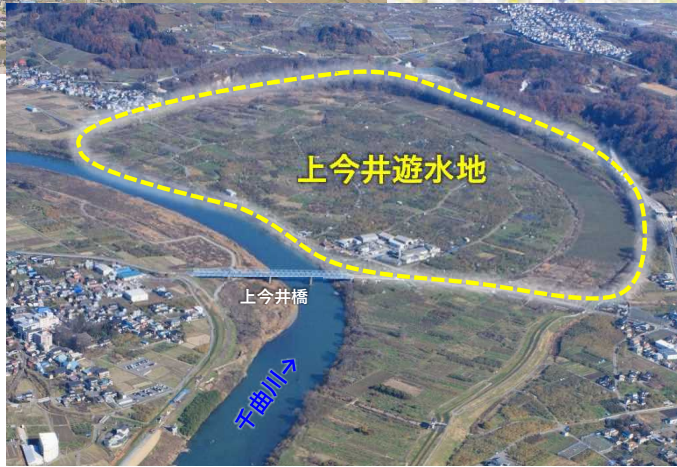


【立ヶ花地区】 ※立ヶ花橋より上流を望む



遊水地計画地 位置図

- 令和元年東日本台風に対する治水対策として、直轄管理区間において、5箇所の遊水地整備を予定。
- 令和6年度(若しくは令和9年度)までの遊水地事業完成を目指す。

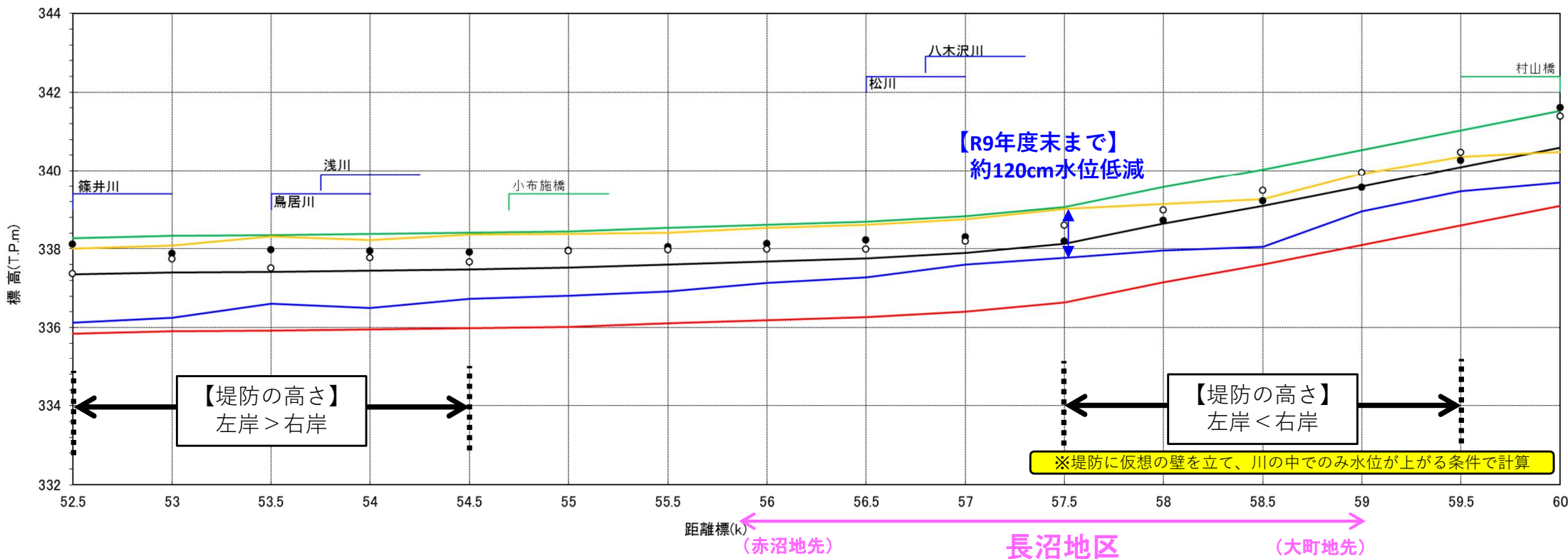


※遊水地は現在計画検討中であり、範囲等は確定したものではありません。 9

河道掘削等の水位低下効果について

- 令和2年度からの各年の河道掘削により、段階的に水位の低下を図る。
- 令和9年度までに河道掘削・遊水地の整備と合わせて、立ヶ花狭窄部上流の水位を計画堤防高以下に収め、千曲川本川からの越水を防止する。

令和元年度東日本台風規模の洪水が
氾濫せずに流下した場合の水位



- 凡例
- 計画堤防高
 - 計画高水位
 - 現況堤防高 (左岸)
 - 現況堤防高 (右岸)
 - 堤防道路高 (左右岸)
 - プロジェクト前の河道での水位
 - R9末までの河道での水位

<以下、参考資料>

河川整備基本方針と河川整備計画

- 「河川整備基本方針」は、長期的な河川整備の最終目標となるもので、河川の整備の基本となるべき事項を定めているもの。
- 「河川整備計画」は、河川整備基本方針に沿って河川整備の目標や整備の内容を定めるもので、計画対象期間を20～30年程度としている。
- 現在行われている河川の整備は、「河川整備計画」で定めた目標に向けて実施している。

河川整備基本方針

長期的な河川整備の最終目標

<定める事項>

- 当該水系に係る河川の総合的な保全と利用に関する基本方針
- 河川の整備の基本となるべき事項
 - ・基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項
 - ・主要な地点における計画高水流量、計画高水位、計画横断形に係る川幅、流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

河川整備計画

河川整備基本方針に沿って定める具体的な整備の内容

(計画対象期間：20～30年間程度)

<定める事項>

- 河川整備計画の目標に関する事項
- 河川の整備の実施に関する事項
 - ・河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要
 - ・河川の維持の目的、種類及び施行の場所

河川工事、
河川の維持

<メモ>